

海老江駅(JR東西線)

昔の幹線道路・大和田街道に沿って歩くと

野田阪神駅(地下鉄千日前線) 野田駅(阪神本線)

「大阪あそ歩マップ集」
その2 No.057

JR海老江駅

淀川の河口部では数多くの島々が形成され、難波八十島と呼ばれました。そのひとつが海老洲。戦火に焼かれなかった地域で、いまでも石畳の路地や長屋が残っています。



①大和田街道

梅田街道とも呼ばれ、起点は難波橋北詰、海老江から西成大橋(現存せず)、姫島、大和田、出来島、佃、そして左門殿川を渡って大物(尼崎市)に至ります。大物からは西国街道に合流し、山陽道として下関に至る西への主要幹線道路でした。大正15年(1926)に西成大橋に代わって淀川大橋が建設されたのちは、ルートが変わって賑わいは新国道のほうに移りました。

②八坂神社

織田信長が石山合戦で、本願寺に味方した野田城の三好一族を攻めたとき、戦勝祈願して陣馬陣刀を献じました。境内には関西俳壇の松瀬青々の句碑「菜の花や はじめや北に 雪の山」があり、また大和田街道西成大橋の親柱があります。



③淀川改修記念碑(海老江中公園)

旧淀川流域は豊かな水流に恵まれていましたが、たびたびの洪水で多くの被害が発生しました。明治18年(1885)の洪水は特にひどく、大阪市街地が水没しました。そこで中津川を利用して新淀川を開削する淀川改修工事がおこなわれ、明治43年(1910)に完成しました。中津川流域にあった海老江村の北部90町余りが新淀川の河床になりました。

④羽間文庫

羽間平三郎氏が江戸時代の町人学者・間重富ゆかりの天文関係資料や大阪の郷土資料などを収集保存して羽間文庫と名づけた。現在、大阪歴史博物館に保存されています。間重富は、長堀に生まれ、稼業は質屋を営んだ裕福な町人でした。麻田剛立に天文学を学び、職人にさま

ざまな観測機械を作らせ、天文暦学を発達させました。幕府から江戸に招かれ、寛政の改暦事業に参加し、その功績で間という姓を名乗ることを許されました。伊能忠敬に天文測量を指導したことで有名です。大坂に帰ってからも四つ橋で観測を続けました。

⑤南桂寺(郭公塚)

明治の初めに住職が傷ついたホトトギスを手当てして助けると、非常に美しい声で鳴きだして、寺院に大勢人々が訪れるようになりました。しかし金目当ての泥棒が鳥を盗み出し、追い詰められて殺してしまいました。住職が郭公塚をつくって手厚く供養したということです。羽が現在も保存されています。

▼南桂寺見学は要予約。

JR海老江駅

